

胃のレントゲン検査（胃バリウム検査）を受けられる方へ

説明と同意書

バリウム（胃の造影剤）を飲んだ後、検査台の上で体の向きを左右に回転させて、食道から胃、十二指腸までをレントゲンで撮影する検査です。食道・胃・十二指腸のがんのほか、胃潰瘍、胃炎、ポリープなどを早期発見することができます。

○検査方法

発泡剤を飲んだあとにバリウムを飲んでいただき、撮影台の上で体を回転して胃の粘膜によくバリウムを付着させて、レントゲン撮影をします。検査中、うつ伏せで頭を下げる姿勢をとるときには手すりをしっかり握っていただく必要があります。別紙の絵をご参照ください。

撮影終了後、下剤と大量の水を飲んでいただきます。帰宅後も水分を多く摂取し、バリウムを便として出すようにしてください。

○注意点

- ・バリウムは味がおいしくないため、飲むのがつらいという方がいます。
- ・発泡剤を飲んで胃を膨らませて検査をする必要があるため、ゲップを我慢してください。
- ・終わったら下剤を飲んで、バリウムを排出する必要があります。**便が出ずにバリウムが腸の中で固まると腸閉塞や消化管穿孔、腹膜炎など重篤な合併症のおそれがあります。特に高齢者では合併症が多くなります。便を出すために、帰宅後も水やお茶を大量に飲んでください。野菜などの食物繊維を多く含む食品をとってください。通常は2～6時間で白っぽい便が出ます。通常便が出ることまで確認してください。**
- ・翌日になってもバリウムを含む便が出ない、腹痛などの症状が続く場合には病院を受診してください。

○検査ができない方（禁忌）

- ・バリウム製剤に過敏症（アレルギー）のある方（じんましん、息苦しさ、手足が冷たくなる）
- ・妊娠中またはその可能性のある方
- ・透析中の方
- ・腸閉塞、腸ねん転と言われたことがある方、または現在その疑いがある方
- ・消化管穿孔またはその疑いがある方
- ・消化管急性出血で治療中の方
- ・自力で立てない、手すりをつかめない、寝返りができない、バリウムのコップを持ってない方
- ・普段からむせる方。バリウムが気管に入ると誤嚥性肺炎になり危険です。

○以下の項目に該当する場合、人間ドックとしては得られる利益に対して危険性が大きいと考えられるため、ご遠慮いただく方がよいと思われます。

- ・ひどい便秘の方（当日まで3日間排便がないなど）、以前のバリウム便がでなくて難渋した方
- ・胃の手術を受けられた方（内視鏡検査が適しています。）
- ・潰瘍性大腸炎や急性胃腸炎で治療中の方（穿孔や病状の悪化の危険があります。）
- ・指示通りに動くことができない方（認知症や精神疾患がある方、日本語が理解できない方）
- ・心不全や腎不全など水分制限がある方（バリウム排出困難が予想されるため）
- ・体重が多い方（おおむね130kg以上）
- ・喘息発作が頻回にあるとき
- ・過去1年以内に腹部の手術や整形外科の手術をされた方（安全性を考慮して）
- ・1年以内に脳梗塞の発作があった方（安全性を考慮して）
- ・過去1年以内に心筋梗塞を生じた方（発作を誘発する恐れがあります。）

○検査を受けることの利益

わが国で行われた研究で、X線検診により、40～48%の胃がん死亡率の減少が認められました。X線検診の感度（がんのあるものをがんと正しく診断する精度）は70～80%、特異度（がんでないものを正しくがながないと診断する精度）は85～90%です。

○検査を受けることによる不利益

放射線の被ばく（被ばく量はおおむね0.6～4.9mSvで健康に影響を与えるものではありません）があります。腸閉塞や消化管穿孔など消化管の合併症があります。誤嚥に伴う肺炎（バリウムの誤嚥は10万件当たり37.3件）があります。バリウムなどによって体質的にアレルギー（過敏症：じんましん、息苦しさ、手足が冷たい）が出る方がいます。検査に伴う死亡は10万件当たり0.015～0.086件です。

その他の不利益については偽陽性、過剰診断、がんがあってもそれを発見できない場合などがあります。また、胃がん等の確定診断には内視鏡検査が必要になります。

○糖尿病薬の確認のお願い

糖尿病の薬を処方されているのかどうかをご自身でご確認ください。

検査のために、朝食を摂取せずに糖尿病の投薬をすると、低血糖を生じて危険な状態になる可能性があります。検査当日朝の糖尿病の内服薬、インスリン注射は中止してください。ただし、例外もありますので、別紙をご参照ください。

受診者の皆様の安全を期すためご協力をお願いいたします。

<胃レントゲン検査同意書>

胃レントゲン検査を受けられる方は、上記のことをご理解いただいたうえで同意書にご署名をお願いいたします。

署名欄

年 月 日

住所

氏名

<糖尿病薬についての確認>

胃レントゲン検査を受けられる方は、糖尿病の薬が処方されているかどうかを確認し、中止してください。中止していない場合、低血糖になる危険があります。

確認できましたらご署名をお願いします。

糖尿病の薬

ある

ない

氏名

胃のレントゲン検査を受けられる方へ 検査までの流れ

1、 食事：検査前日の夜 10 時以降から検査終了まで食事はしないでください。検査当日は朝 7 時まで水分を飲んでも構いませんが、お茶、コーヒー、牛乳など水以外の飲み物は飲まないでください。検査終了まではタバコも控えてください。

2、 検査当日の薬について

×糖尿病の薬・・・検診当日朝の糖尿病薬の内服は中止してください。インスリン製剤は、別紙を確認の上、中止または減量してください。

○心臓病、高血圧、喘息の薬・・・朝 7 時まで 200ml 以内の水で必ず飲んでください。

それ以外の薬は検査後にお飲みください。わからない場合には主治医にご確認ください。

3、 服装：検査の受けやすい服装でおいでください。

金具やファスナーのない無地のもの、ウエストがゴムのものなどの着用が望ましいです。アクセサリーや時計は外してください。

4、 検査の方法 バリウムを使用した胃レントゲン検査です。

① 初めに発泡剤とバリウムを飲みます。検査終了までゲップは我慢してください。

② 胃の粘膜にバリウムを付着させるため、撮影台の上で体を左右に動かしたり回転したり頭部を下げるなどの体位があります。ご協力をお願いします。

5、 検査終了後、下剤と水を飲んでいただきます。



胃検診こんなかんじ



1.発泡剤を飲みます。



小瓶の中の白い粉をすべて少量のバリウムで飲みます。だんだん胃が膨らんでいき、ゲップが出やすくなります。



検査終了までゲップは我慢しましょう。

2.バリウムを飲みます。

こぼさないように気をつけて全量お飲みください。



3.撮影台に立ちます。

両側の手すり棒をつかみ、左斜め前を向いて立ってください。台が倒れていきます。

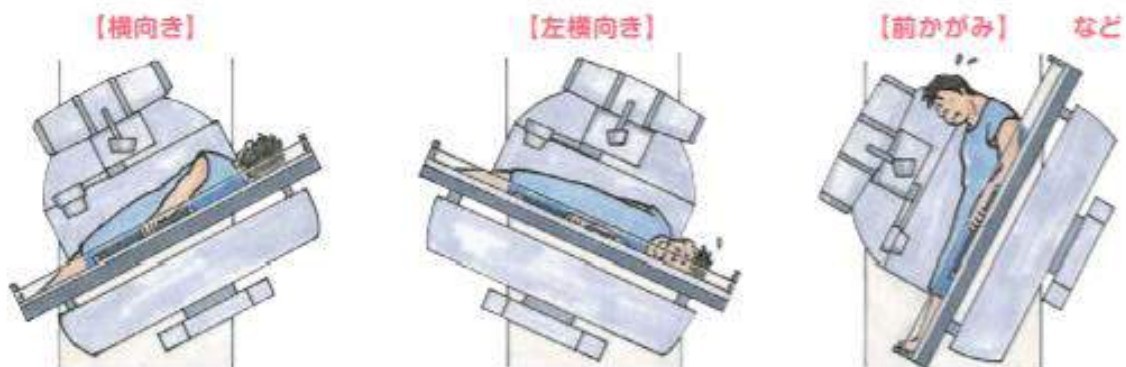


4.右回りに3回、回転してください。



5.いよいよ撮影開始です。

いろいろな体の向きで撮影します。



★手すりをしっかり握りましょう★

6.中ほどに、うつ伏せで頭を下げる姿勢があります。



7.台が立って止まったら検査終了です。



胃X線検診安全基準、日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会より転載